

秋田県立金足農業高等学校の概要（平成27年度）

金足農業高校は、昭和3年に秋田県の産業教育（主に農業）を担う高校として創立され、平成27年で創立87年を迎えた。

この間、2万名を超える卒業生（平成27年3月卒業で総数22,373名）を輩出した。卒業生の多くは県内に定着し、本県産業の中核を担う人材の育成に貢献している。

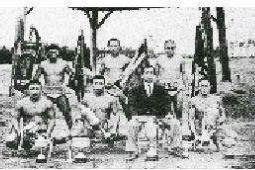
また、ここ秋田市金足の地において、農場面積を含めた校地面積20haの緑に囲まれた広大な敷地は、隣接する小泉潟公園等の周辺の景観と調和し、生徒は恵まれた教育環境のもとで学んでいる。

金足農業高校の沿革史

昭和3年(1928年)開校



石川理紀之助翁の石
碑「寝て居て人を起こす
ことなかれ」



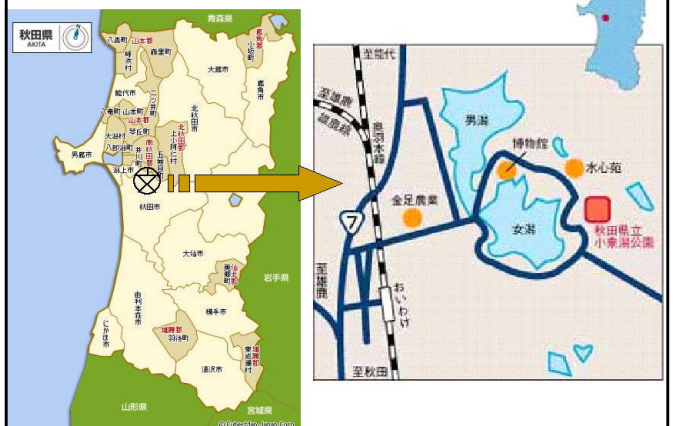
(H15農業クラブ 農業鑑定競技全国大会 本校で開催)

本校は、秋田市の北部15kmの金足地区にあり、秋田市のベットタウン的要素を持っている。この地区に隣接して、緑豊かな自然が広がる南秋田郡や潟上市があり、更には「なまはげ」で知られる男鹿半島、八郎潟を干拓してできた大潟村があり、交通の要（交差点）の地域としての特性を持っている。

この地域の農業の営農形態としては、都市近郊型農業地域である。

一方、本校に隣接して、秋田県立小泉潟公園があり、その中に「水心苑（日本庭園）」や県立博物館、旧奈良家住宅（国指定重要文化財）、県の天然記念物指定を受けている女潟があるので、教育環境や教育素材としても恵まれた地域に存在している。

秋田県立金足農業高等学校の所在地



本校は、校内の敷地面積が実習農場を含めて20haで、平成27年度は、教職員68名、生徒数は524名（男252名、女272名）在籍しており、本県では大規模の学校である。

学科構成は、生物資源科、環境土木科、食品流通科、造園緑地科、生活科学科の5学科で、都市近郊型農業地域の農業高校として、農、食、環境、生活・福祉に関する専門分野全般について学習し、これらの農業教育を通じて「広く豊かな人間性をはぐくみ、実践力と創造性に富む人材を育成する」ことを目指している。



(金足農高 航空写真)

▲生徒の在籍数等

※学年別生徒数

(平成27年7月現在)

学科名	定数	第1学年			第2学年			第3学年			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
生物資源科	110	15	20	35	13	22	35	19	16	35	47	58	105
環境土木科	110	33	2	35	35	0	35	35	0	35	103	2	105
食品流通科	110	14	21	35	14	21	35	12	23	35	40	65	105
造園緑地科	110	22	13	35	22	13	35	18	16	34	62	42	104
生活科学科	110	0	35	35	0	35	35	0	35	35	0	105	105
合計	550	84	91	175	84	91	175	84	90	174	252	272	524

1845年、羽後国秋田郡金足村小泉で誕生した農聖石川理紀之助（県種苗交換会創設、農村復興）の「寝ていて人を起こすことなかれ」を教育方針の一つとして、農業教育を推進している。



農聖石川理紀之助の「寝ていて人を起こすことなかれ」石碑



(平成19年第89回夏の甲子園大会出場)

また、本校野球部は春の大会3回、夏大会5回の合わせて8回の甲子園出場を果たしており、有名私立高校が出場機会の多い中、雑草軍団として甲子園に出場している本校は、全国的にも有名である。